



リカバリーセンターかなでの 進化と未来

共に描くリカバリーのこれから

2025年6月13日

郁未



導入

1

誕生と背景

リカバリーセンターかなでが誕生した経緯と設立の思い。

2

大切にしてきた支援姿勢

これまで私たちが重視してきた支援の考え方と実践。

3

本日の目的

過去・現在を比較し、未来への指針を共に考えます。

企業理念：

「出会う人にたくさんの笑顔を届けよう。そして私たちも豊かになり、成長し、よりよい社会を目指そう」



過去のかなで（創設期～数年）



傾聴・寄り添いの支援姿勢

一人ひとりの声に耳を傾け、共に歩む姿勢を大切にしてきました。



小規模による柔軟性と個別対応

小さな組織だからこそできる柔軟な対応を強みとしてきました。



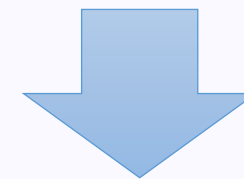
地域に根差した支援ネットワーク

地域との繋がりを大切に、支援の輪を広げてきました。



定性的な成果把握

利用者の声を中心に、支援の成果を捉えてきました。



寄り添い型支援

現在のかなで



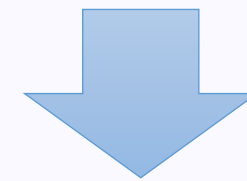
柔軟な支援力

創設期の生活訓練事業だけでなく、就B、GHへの事業拡大したことで、柔軟な提案を出来るようになった。



多業種での支援への意識

当施設以外の関係機関と密に連絡を取りあうことで、生活全般をフォローすることができるようになった。



伴走型支援

KPI [Key Performance Indicator]

- 支援の成果や質を数値として客観的に把握するための指標

LTV [Life Time Value]

- 利用中だけでなく支援を終えた後も含めた“人生全体における支援の価値”を考える概念です。



LTV（Life Time Value）と KPIの進化

観点	過去型	未来型
評価時点	通所終了時点	数年後の生活安定性
指標内容	通所日数・工賃	定着率・社会参加
意味づけ	支援の成果	暮らしの継続的支援 価値

これからの方向性



安心と挑戦の段階支援

安心の提供と挑戦できる自信への段階的な支援を行います。



小さな成長の可視化

一步一步の成長を見える化します。



多様な外部との連携

様々な団体との共創により、支援の幅を広げます。



地域のハブ的存在へ

他事業所・地域住民・行政をつなぐ中心的役割を担います。



まとめ



過去の強み

寄り添う支援を大切にしてきました。



現在の強み

生活全般を見れる体制



未来への挑戦

地域の未来を牽引します。